ナイショの
コスプレ
委員長
基本CG8枚（差分62枚）全108P
MILK RING

年に二回、夏冬に開催される同人誌の祭典――
そのなかでも一番盛り上がる、夏のコミケ３日目。

ボクも朝早くから列に並び、
お目当ての同人誌をなんとか手に入れ
（ぜんぶは無理だったけど…）
ひとまずはホクホク顔でホールの外に出る。

時刻はまだ13時。
好きなジャンルの島を
ゆっくり回ろうかとも思ったけど…
リュックのなかに入れておいた
カメラのことを思い出したんだ。

「そうだ…コスプレ広場に行かなきゃ！」

数年前から、コスプレ広場のメイン会場は
会場のビックサイトから少し離れた場所にある
「防災公園」に移っていたんだ。

ビックサイトのなかにもコスプレゾーンは
数カ所設置されていたけど、ボクは広くて
開放感がある防災公園が一番のお気に入り。

ボクは新品のミラーレス一眼カメラを手に
（本当は風景やフィギュアの写真を撮るために
貯金して買ったんです…！）
色とりどりのレイヤーさんたちを
物色しながら、公園のなかを歩き出した。

と、その時――

（あ、凄い綺麗な高雄のレイヤーさんがいる！
で、でも…どこかで、見たことあるような…）

防災公園の中央あたり。カメラマンの列の前で
ポーズを決める高雄コスのレイヤーさん。
その顔だちに…ボクは見覚えがあった。

正確に言えば、レイヤーさんの目の下にあったホクロ…
その特徴が、ボクの知っている人によく似ていたんだ。

（も、もしかすると…このレイヤーさんって…
よ、よしっ、ボクも並んでみよう）

ボクは真相を確かめるべく、カメラマンの撮影待ちの列に並んだ。
前には五人ほどのカメラマン。
ボクはどきどきしながら、順番を待ったんだ。

「よ、よろしくお願いします…」
「…！　え？　キミは…！」
高雄レイヤーさんの目が、大きく見開かれる。
その瞬間、ボクの予想は確信に変わった。
「キミは…クラスメートの…！」
「あ、えっと、そのっ…委員長…ですよね？」
や、やっぱり…間違いないよ。
この高雄レイヤーさんは…ボクのクラスの委員長だ！

成績優秀で運動もできて、生活態度も模範的。
くわえて、校内でも指折りの美人。
それが…ボクのクラスの委員長。
男子の憧れの的だったけど、高嶺の花すぎて…
みんな遠巻きに見ているだけ。
委員長に釣り合う男子なんて、
校内にはいないんじゃないかな…？

もちろん、委員長が慕われているのは
ルックスや性格、学業の成績だけじゃない。
これは、男子たちの間でしか話せないけど…
委員長のスタイルも人気のヒミツなんだ。
制服の上からわかるほどに胸もおっきいし、
スカートの下のお尻だって、その…
エッチな動画に出てるようなセクシー女優さんみたいに、
とってもデカくてむちむちしてるんだ。

もちろんボクも委員長には、その……
憧れてはいたけれど、
同じクラスメイトといっても特に接点もなく。

一度だけ、廊下ですれ違ったときに話したことがあるけれど…
『授業中はスマホ、いじらないほうがいいですよ』と、
注意されただけ…なんだよね。

で、でも、その委員長がどうして…
こんなところに？
委員長って、コミケに来るような
人種には見えないけど…

というか、委員長の趣味とか、私生活とか…
ボクは全然知らないんだよね。

それにしても…委員長って、
『艦これ』に興味あったんだ…
コスプレをするくらいだし、
もしかして委員長も、
ボクと同じ「こちら側」の人種…なのかな？

と、とりあえず、写真…
写真を撮らせてくださいって頼んでみよう。

「ええと、その…写真、いいですか？」
「どうぞ。でも約束してもらえる？
学校の…クラスのみんなには内緒にしてほしいの。
あと、SNSにアップするのもダメ」
「は、はいっ！　わかりました、守ります」

委員長、自分がコスプレイヤーだってこと、
みんなには秘密にしているのかな…？
いわゆる、オタバレ防止ってやつ…
でも、そうだよね。委員長のイメージってものもあるし…

「そ、それでは…お願いします」
ボクは緊張して裏返りそうな声を絞り出し、
委員長へとカメラを向けた。

ボクは微かに震えながらも、
委員長にピントを合わせてシャッターをきっていく。
ファインダーの中の委員長は、ボクが知ってる
制服姿の委員長と…なんだかイメージが違っていた。

パシャッ

パシャッ

目を引いたのは凛々しく整った顔だちだけじゃない。
身体をひねると形のいいおっぱいが弾み、
むっちりとした腰が揺れる。

身体のラインがぴったりと浮き出た衣装は、
原作よりもなんだかとっても…いやらしくて。
委員長のむちむちなスタイルを、際立たせていた。
そのエッチなからだつきに…ボクは興奮していたんだ。

「な、なんか調子…狂うわね。リアルな知り合いにコス姿を撮影されるのって、これがはじめてだから…」
「ぼ、ボクもです。クラスメートの写真を撮るのは…はじめてで…」
「ね、キミはその…よく、こういうイベントに来るの？」
「は、はいっ、夏と冬は毎年来てますっ。あと、大きめのオンリーイベントなんかも…」
「ふぅん、そうなんだ…以外と『濃い』んだね」
わ、わわ…委員長といっぱい会話しちゃった…。
な、なんだか…嬉しいな。えへへ…

ボクは角度や高さを変えながら、
委員長の姿をカメラに収めていく。

委員長とおしゃべりできちゃった…！
そればかりか、クラスメイトも知らない
委員長の秘密を…共有できちゃった！

ボクはすっかり上機嫌になり、
浮き足立ちながらシャッターを切り続ける。

でも…そのとき、
あることに気付いちゃったんだ。

（わ、わわっ……！パンツが食い込んでる！）
い、委員長のアソコに……
チラチラと見えるスカートの下に見え隠れする、高雄さんのパンツ…
それが、委員長の大事なところに、むっちりと食い込んでいたんだ。
そればかりじゃない。食い込んだパンツの左右には、
収まりきれなかった、その…アソコの毛が、
びっしりと生えていたんだ……！
す、すごい…委員長って、こんなに毛深いんだ…
というか、お手入れしない派なんだ…

「ん…？　どうしたのかしら。いきなり前屈みになって…
もしかして、お腹でも痛いの？」
「え、えっと、そのっ……！」
「まさか、変なところをズームして撮ってるんじゃないでしょうね？」
「ち、ちが…うう…っ（ちがわないけど！）」

これって、教えてあげたほうがいいのかな？
ぱ、パンツから、その…ま、マン毛がはみ出てるって。
ボーボーのえっちな毛が、見えちゃってるって。

よくネットとかで、
レイヤーさんのハミ毛が盗撮されてるのを
見るけど…このままじゃ、委員長のアソコが
業者とかローアンのひとに盗撮されまくって、
ネットに晒されちゃうよぉ…！

ボクがモジモジしながら
決断を迷っていた、そのとき。
目の前にいた委員長の様子が…
気のせいか、さっきまでと違う雰囲気に……

う、うまく言えないけど、
顔がさっきより赤らんで、
息が荒くなってるっていうか…
エロ漫画とかでいうところの、
『発情』しちゃってるって…いうか。

「はぁーっ、はぁぁーっ♥　…ど、どうしたの？
私のコスプレ…どこか変…かしら？」
「え？　べ、別に変じゃない…です。
むしろ、すごくいいと思います」

ふぅーっ♥

はぁーっ♥

「そ、そう…？　それならいいの。
これはコスプレ…コスプレなんだから…
遠慮せずに撮っていいのよ。はぁっ、んんっ……♥」
「は、はいっ！　そ、それじゃ…
次は振り返りのポーズを撮らせてもらっていいですか？」

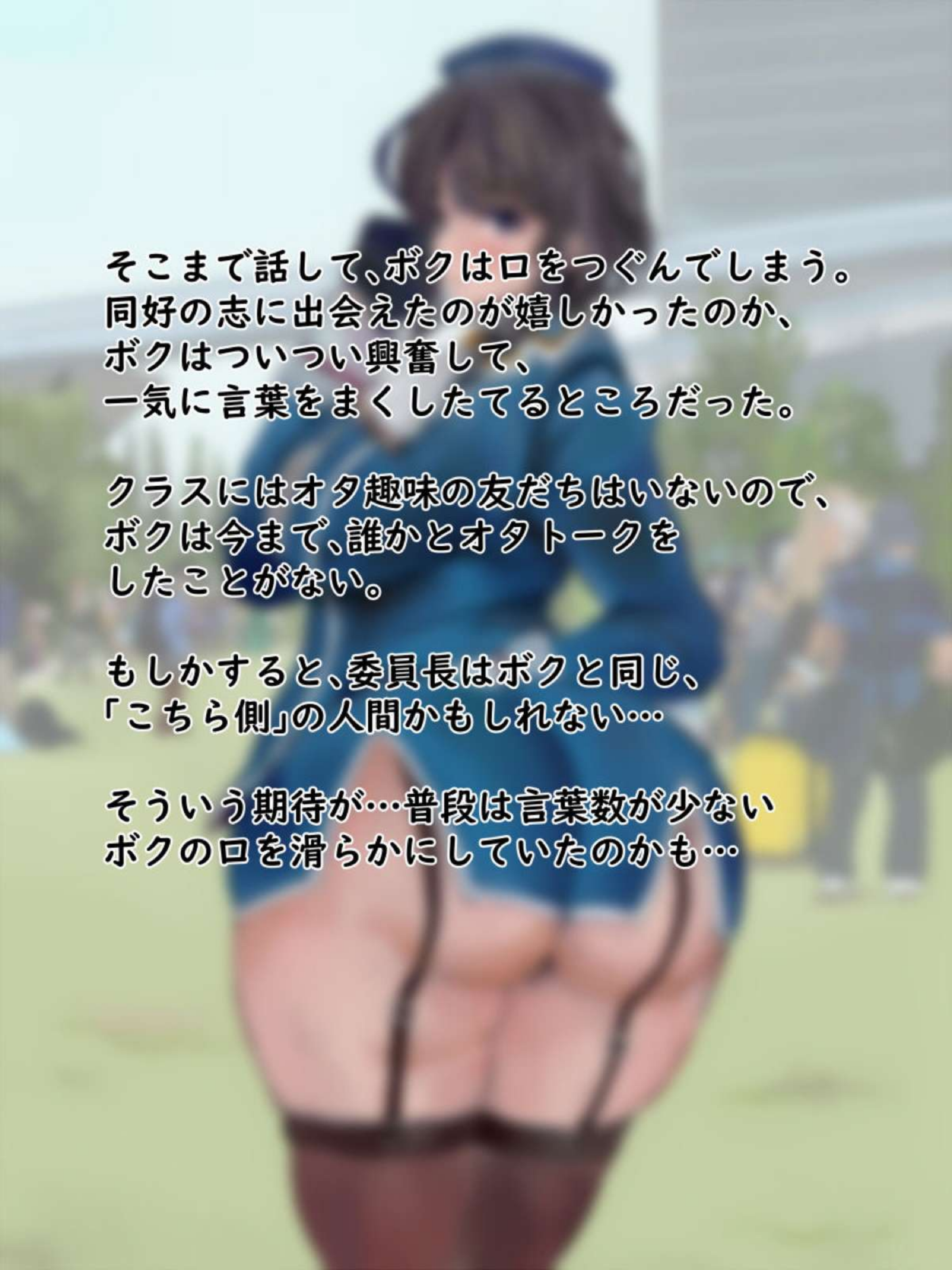
「振り返りのポーズ…バックショットね。これでいいかしら？」
ボクのリクエストに応えるようにして委員長は腰をひねらせ、
そのむっちりとしたお尻をこちらに向ける。
（う、うわっ……！　お、お尻が半分見えちゃってる！？）

衣装の端からチラチラと見えるのは…委員長のお尻。
しかも、ストッキングを着用してない…生のお尻だ。
委員長のお尻は夏の暑さで汗ばみ、キラキラと…輝いていた。

い、いいのかな…委員長、恥ずかしくないのかな？
クラスメイトの生尻を見るなんて、ボク、はじめてだよ。
どきどきしながらシャッターをきるボクの前で、
委員長のお尻がフルフルと揺れる。あ、ああっ、すごくエッチだ…！

「ごめんね、私、おしり大きいから…
高雄のイメージ壊しちゃってないかしら？」
「だ、大丈夫です！　む、むしろボク的には
高雄型って全員むっちりしているイメージがあるので
委員長のスタイルが最適解というか…！」

むちっ♥
むちいっ♥



そこまで話して、ボクは口をつぐんでしまう。
同好の志に出会えたのが嬉しかったのか、
ボクはついつい興奮して、
一気に言葉をまくしたてるところだった。

クラスにはオタ趣味の友だちはいないので、
ボクは今まで、誰かとオタトークを
したことがない。

もしかすると、委員長はボクと同じ、
「こちら側」の人間かもしれない…

そういう期待が…普段は言葉数が少ない
ボクの口を滑らかにしていたのかも…

でも、変な期待は…しないほうがいいよね。
これをきっかけにして
委員長と仲良くなれるなんて、
そんな都合のいいこと…起こるわけないし。

別に親しくもないのに、
ここぞとばかりまくしたてちゃうと、
「厄介オタク」とか思われちゃうかもしれないし、
な、なにか変な下心があるかもしれないって、
思われちゃうかも…しれないし。

ボクがそう、自分に言い聞かせ、
自制に努めようとしてた…その時。

「きゃっ……！？」

突如、防災公園に吹きつけた一陣の突風。
それは目の前にいた委員長の衣装を軽やかに巻き上げた。
委員長は短い悲鳴を上げ、身をくねらせる。

ふあさっ♥

（わ、わわっ！　委員長のおしりが……丸見えに！）

衣装の下にあったのは、むっちむちのデカ尻……！
委員長が「気にしていた」大きめのお尻が、
ボクの目に飛び込んできたんだ。

そ、そういえば…教室で誰かが話していた気がする。
クラスで一番お尻が大きいのは委員長だって…
ちょ、ちょっと品がない話だけど、
委員長のお尻を隠し撮りして、
オカズに使ってる生徒もいるって…

ぷりんっ♥

むちぃっ♥

（あ、ああっ…！　これがみんなのオカズ…
ズリネタになってる巨尻っ！　すべすべで、つやつやで…
お肉がパンパンにつまってて、とってもヤらしいよぉ！）

ボクは下半身に熱い昂りを感じながら、思わずこっそりとシャッターを切って、委員長の生尻をカメラに収めてしまう。

「もうっ、なによこの風…！」

かぁぁぁっ♥

「ね、ねえ…さっき風が吹いたとき…」
もしかして、ヘンな写真…撮らなかったでしょうね？」

「え？　う、うんっ、と、とと、撮ってないよ。
なにもヘンなものは見えてないし、撮ってないよっ」

「はぁっ、はぁっ…♥
さっきはすっごくスカートめくれちゃって…
んっ、んくぅ…お尻、丸出しになっていたものね。
撮られてたら…ヤバかったわよね」
はぁーっ♥
はぁぁーっ♥
委員長はそうつぶやくと、大きく安堵の息を吐きだす。
気のせいか…委員長の顔がどんどん赤くなり、
息も荒くなっているような…
もしかして、どこか調子悪いのかな？
ふりっ♥

で、でもっ、ごめんなさい委員長…！
実はさっき、スカートがめくり上がった瞬間、
ボクはしっかりとシャッターをきっていたんだ。

こっそりとバレないように、撮影した写真を確認してみる。

（ああああっ！　こ、これ、バッチリ映ってるっ！
委員長のアソコが、丸見えになっちゃってるぅ！
た、大変なことになっちゃってるよおっ！）

パンツはアソコにむっちりと食い込み、
その周囲にはびっしりと生えたアソコの毛…
ま、マン毛がボーボーになってるっ！

しかも、アナルの周りにも毛が生えてるなんて…
お、女の人にもこんなふうに、お尻に毛が生えるんだ…
はぁっ、はぁぁっ…やらしいぃ、やらしいよぉ。
こんなえっちな高雄さん、条約違反だよ…！

ボクは心の中で委員長に
盗撮のことを謝りつつも、
自分の現状…
おちんちんが勃起してるのを
委員長に知られないように、
慌てて次のポーズのリクエストをする。

普段は同級生の女の子に、
こんな頼み事をするのは
不可能だけど…今日は勢いというか、
イベントのノリで、
ついつい口走っちゃったんだ。

だけど、委員長は嫌がることなく、
短くうなずくいて承諾の意を示すと、
むっちりとしたお尻を揺らしながら
次のポーズをとってくれたんだ。

「それじゃ…こんなポーズはどうかしら？」
委員長はボクのリクエストを聞き届け、
身をかがめて別ポーズをとりはじめる。
ボクも片膝をついて、フレームの中に委員長の姿を収めた。

正面から見ると…委員長って本当に整った顔してる…
アイドルをやっててもおかしくないほど…だよね。
「コスプレ写真を撮るため」という大義名分があるおかげで
こんなに近くで委員長の顔をまじまじと見れて…ボクは幸せかも…！

「どう？　緊張はほぐれてきた？」
「え？　ぼ、ボク…ですか？」
「ええ。撮影をはじめたとき、なんだかガチガチだったわよ」
委員長はそう言って柔らかな笑みをつくる。
「そ、そうですね、すこし、慣れてきたというか…
ま、まさか委員長のコスプレ姿を撮影できるなんて、
思ってもいなかったので…。それにボク、カメラも初心者で…」
「あら。それなら私もレイヤー初心者よ。
コスプレはじめたのは一年前だし…」

ボクを緊張させないためなのか、
委員長は自らのコス歴を、
穏やかな口調でボクに告げる。
こういう心遣いは、さすが委員長って感じ…
みんなに慕われているだけあるよね。

で、でも、こんなに美人で優しくて、
スタイルもいい委員長なのに…
アソコの毛はボーボー、なんだよね…

で、できればもう一度…見てみたいな。
もうちょっと足を開いてくれたら
…その、見えるんだけど…

よ、よしっ…！　だ、ダメもとで聞いてみようっ！
こんな機会、もう二度と無いかもしれないし…！
「あ、あのっ、もう少し、そのっ、な、なんというか…
足を…開いてもらってもいいですか？」
ボクは震えるような声で、そう委員長に告げた。
足を開くということは…その、アソコの部分が、
パンツが丸見えになるって…ことで。
当然、委員長も、ボクがなにを撮りたいのか、
その言葉がなにを意図しているかは…わかっちゃうだろう。

「足を…開くの？」
「え、えと、そのっ、ダメならいいんですっ！」
「……」

ボクの言葉を受けて、委員長は真っ直ぐに視線を向けてくる。
う、ううっ、や、やっぱりダメだったかな…
ボク、調子に乗り過ぎちゃったかな…
耳の端まで真っ赤になりながら、ボクは軽く唇を噛みしめる。
と、そのとき…

「ハアっ、あぁっ…♥　あ、足を…開かせたいんだ？
足を開いたら…いろいろと見えちゃうかも…んっ、んんんっ…♥」
「そ、そそそ、そうですね、見えちゃうかもですねっ」
「でも…リクエストされたのなら、しょうがないわよね…
自分から見せるわけじゃ…はぁっ、んっ、ないんだからぁ…♥」

はぁーっ♥
はぁーっ♥
ふぅぅーっ♥
はぁーっ♥

目の前の委員長は、微かに息を荒げながら言葉を継ぐ。
その頬は紅潮し、瞳もなんだか…熱で潤んでいるように見えた。
ボクは催促するようにカメラを構え、
息を呑んで…委員長の次のリアクションを待った。

次の瞬間。
委員長はゆっくりと、閉じられていた足を開いた。
そして、ボクの視線の先には…委員長の毛深いアソコ…
パンツが食い込んだ、えっちな股間があらわになったんだ…！

「ふぅぅー♥ んっ♥ くぅん…♥ こ、これで、いいかしら？」

はぁーっ♥ ふぅぅーっ♥

モサァァッ♥

ムワァァッ♥

ボクは思わず身を乗り出して、眼前に晒された
委員長のアソコに視線を注ぐ。
パンツに収まりきれないもじゃもじゃのマン毛が、
汗や…ボクの知らない体液に濡れて、テラテラと輝いている…！

（あ、ああっ！　すごいっ、えっちだよぉ、やらしいよぉっ！
はぁっ、はぁぁっ、委員長のボーボーおまんこっ、
パンツに収まりきれないハミ毛っ！　好きっ、好きぃぃっ！）
ボクはおちんちんが硬くなっていくのもかまわず、
委員長のハミ毛をカメラに収めていく。
い、委員長は知ってるのかな？　自分のアソコが
大変なことになってるの。知ってて…見せてるのかな？
パシャッ
むんっ♥
モワァァッ♥
パシャッ

「はぁっ、ああっ、いいいですっ、すごいですっ、委員長、素敵ですっ…！」
「はふっっ♥ んっ♥ んんっ…♥ き、気に入ってくれたみたいで嬉しいわ。キミ、『こういうのが』好きなんだ…」
委員長はなにやら思わせぶりな口調で、ボクに話しかける。
はふっーっ♥
はぁーっ♥
んんっ♥
ボクは、自分の中のえっちな欲望を委員長に咎められたように感じ、恥ずかしさで…なぜか、さらにおちんちんが硬くなっちゃうのを感じていた。
「は、はいっ…！ い、家のPCには、こんな感じのコスプレ写真を集めたフォルダがたくさんあって…って、ぼ、ボクはなにを言って…！」

ついつい口走りそうになった秘密を
慌てて喉の奥に飲みこむと、
ボクは再びシャッターをきり続けた。

ま、まさか委員長の、
こんなえっちな写真が…撮れるなんて…
あの清楚で真面目で、みんなの憧れの委員長が…
オタクイベントで、えっちなコスプレをして
おまんこのハミ毛を晒してる…！

ボクはこのシチュエーションに興奮し、
さらに息を荒くしていた。

なぜなら…ボクもまた、委員長の
お尻や顔を思い浮かべ、
おちんちんをシゴいたことがあるひとり…
だったから。

委員長は…ずいぶん前から、
ボクのオカズ…だったんだ。

気がつくと、ボクの後ろには
大勢のカメラマンが並んでいた。
みんな、委員長を撮影するための順番待ちだ。
も、もしかして…みんな、
委員長のハミ毛に気付いたのかな？
い、いや、これだけクオリティの高い
高雄コスだもん。
撮らないほうが…おかしいよね。

背後からの圧を感じ、そろそろ撮影を
きりあげようとしたそのとき。
ボクの耳に届いたのは…
小声で呟く委員長の声だった。

『はぁっ♥　はぁっ…♥
興奮する興奮する興奮しちゃうぅ♥
見られてるっ♥
大股開きのアソコ、接写されてるっ♥
ふうーっ♥　ふうぅーっ♥』

「…え？　委員長、いま、なにか言った…？」
「べ、別になにも言ってないわよ…んっ、はぁーっ、はぁぁーっ♥
ね、ねぇ、もっと撮ってくれるんでしょ？
もっと私で…興奮、してくれるのよね…？」

はぁーっ♥

んふーっ♥

委員長は熱にうなされたようにそう言うと、
唇を軽く舐めて、自分からポーズを変え、腰を突き出しはじめた。
（…え？　さ、さっき委員長…じ、自分を見て興奮して欲しいって…
言ってたよね？　き、気のせい…かな？）

ひくっ♥

モサァッ♥

委員長は両膝をつくと、腰を突き出すようなえっちなポーズで、
ボクのカメラへと視線を注ぐ。
グイ、と突き出された股間はスカート(?)で隠し切れておらず、
裾からはえっちな毛が依然として見え隠れしてる…!

そして、委員長が胸を反らせた瞬間、ブラウスの胸元のボタンが
弾け飛び…胸の谷間があらわになる。
しかし委員長は露出した谷間を隠すこと無く、
そのままポーズをとり続ける。

お尻も見事だけど…委員長はおっぱいも大きいんだ…！
パンパンに張ったバストが衣装を押し上げ、窮屈そうに揺れている。
あらわになった谷間はとっても柔らかそうで…
ここにおちんちん挟んだら気持ちいいだろうな、なんて思っちゃった。

「い、いいポーズですね…！　それじゃ、撮りますっ！」

ボクはさらに身体を火照らせながら、シャッターを切り続けた。
後ろの順番待ちのカメラマンも気になったけど、
委員長の魅力には抗えなかったんだ…！

「はぁっ♥　ああっ♥　これ、絶対にオカズにされちゃう♥
ネットとかで晒されたら……はぁっ、ああっ…んっ♥
私っ、もう…登校できないぃ……♥」

「え？　あ、あの？　いいん…ちょう？」

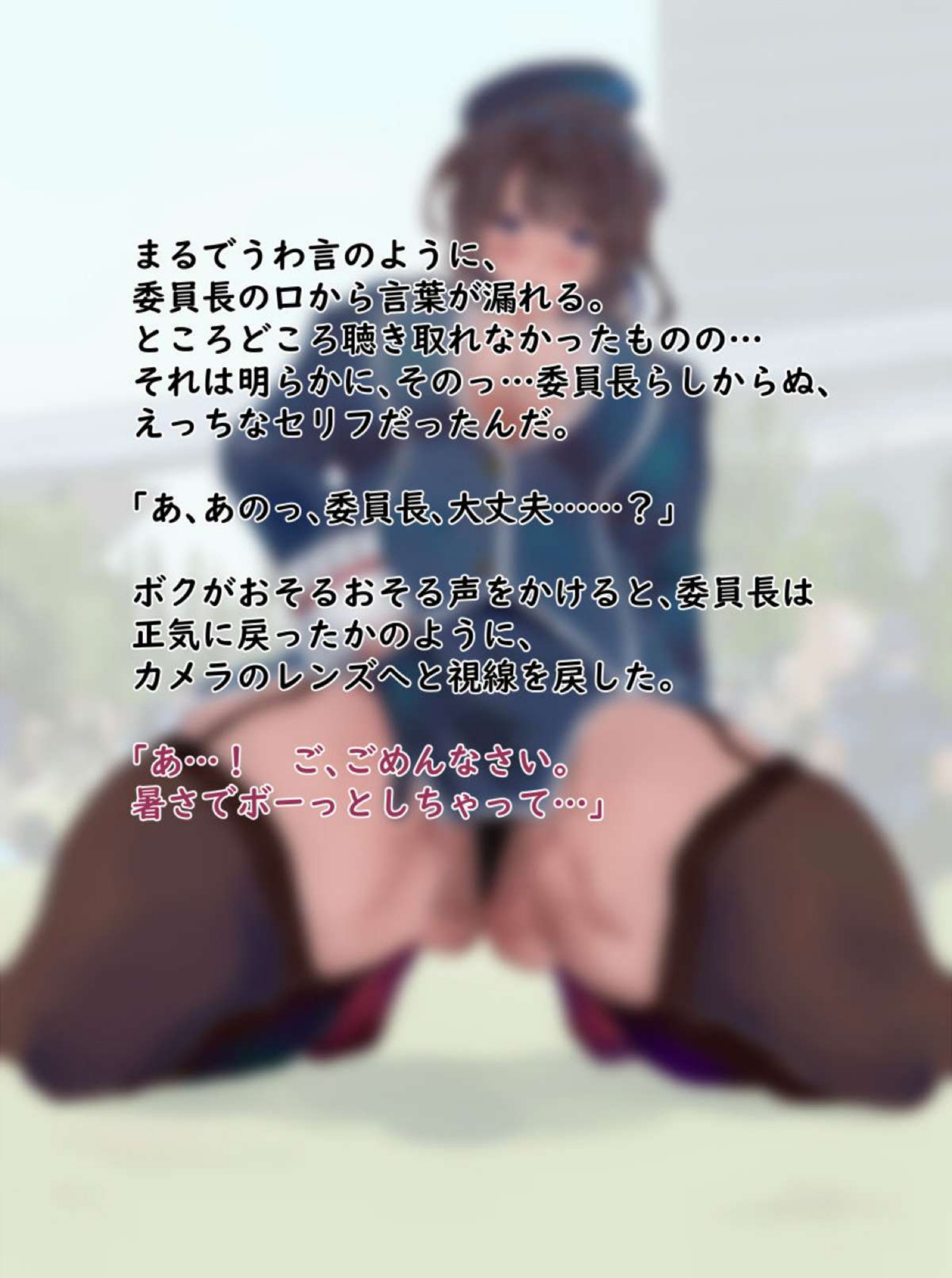
はぁーっ♥

んふーっ♥

ピクン♥

ピクン♥

「ふぅっ、はふぅっ♥　ああっ♥　だけどっ、もっと見られたいっ！
私の恥ずかしいコスプレ写真でっ、勃起していいからっ、
いっぱいシコシコしていいからぁっ♥
ズリネタにしてっ、私のコスプレ写真っ！　ふぅーっ♥　はぁあっ♥」



まるでうわ言のように、
委員長の口から言葉が漏れる。
ところどころ聴き取れなかったものの…
それは明らかに、そのっ…委員長らしからぬ、
えっちなセリフだったんだ。

「あ、あのっ、委員長、大丈夫……？」

ボクがおそるおそる声をかけると、委員長は
正気に戻ったかのように、
カメラのレンズへと視線を戻した。

「あ…！　ご、ごめんなさい。
暑さでボーっとしちゃって…」

「だ、大丈夫？　休憩したほうが…」
「心配してくれてありがとう。でも平気よ。
撮影を続けましょう」

よかった…委員長、もしかしたら
熱射病かとおもったけど
意識ははっきりしているみたいだ。

むしろ、どうにかしちゃってるのは
ボクのほうだよね。
あの真面目な委員長が、えっちなことを
言うわけがないじゃないか。

ボクの妄想が溢れ出て、委員長の言葉が
ヘンに聞こえちゃった…だけだよね。
そう考えて、ボクは再びレンズを
委員長に向けたんだ。

ボクの後ろに並んでいるカメラマンのみんなからは、
「早く撮影変われよ！」という圧が痛いほどに伝わってくる。
みんな、委員長のえっちなコスプレ姿を撮りたいんだ…

はあっ♥はあっ♥

んんっ♥
はふぅぅーっ♥

「じゃ、じゃあ、ラスト何枚か撮影させてください。
そ、そのっ、おすすめのポーズとか…ありますか？」
「おすすめのポーズ…？
そ、そうね…それじゃ、こんなポーズは…どうかしら」

むちぃっ♥

次の瞬間、委員長は自らの股間に手を伸ばすと、
腰を突き出すようにしながら、
パンティの下にあったワレメ…
おまんこを割り開くようにして指を添えた。

はぁーっ♥
あっ♥んんっ♥
はふぅぅーっ♥
はぁぁーっ♥
くぱぁ♥
むにぃぃっ♥

（……!?!? え、ええっ!?）

「んくぅ♥ はーっ、はぁぁーっ♡ んっ、み、見えるっ??
カメコのみんなはこういう写真…撮りたいの…よねっ??」

委員長の呼吸が荒くなり、口元からは熱っぽい吐息が漏れる。
パンツからはみ出たピンク色のワレメに、ボクは思わず息を飲んだ。
こ、ここここれって、見えてるよね？
い、委員長の大事なところ、見えちゃってるよね……！？

（わ、わわっ！　うそっ！　クラスメートのおまんこ…
い、いや、そもそも女の子のアソコ、はじめて生でみちゃった…！）

これまでも、ネットでこっそりと無修正のアソコを見たことは…あったけど。本物を見るのははじめて…す、すごくえっちな色してるっ…それに、うっすらとキラキラ光ってて……も、もしかしてこれ、濡れてるってやつなのかな？
はふーっ♥
はあっ♥ はあーっ♥
くちゅっ♥ むにいいっ♥
「はぁっ♡ ああっ♡ 見せちゃったっ、んっ、くふうっ♡ 私のアソコっ、見られちゃダメなところっ、んんーっ！ こんなにたくさんの人がいるところで……っ 私、晒しちゃってるっ、おっ、おおんっ！ んんっ！」

委員長の口からは、喘ぎ声に近いような
かすれ声が聞こえてくる。
ボクは全身が熱く火照るのを感じながら、
委員長のアソコにピントを合わせ、
次々とシャッターを切りまくる。

信じられないよ…憧れの委員長が、
えっちなコスプレをして、
剛毛おまんこを晒しながら
喘いでいるなんて…

スカートや体育の短パンの
下にあったアソコは、
こんなにえっちで…剛毛で、
ヤらしくヒクヒクしてたんだ…！
はぁっ、ああっ、すごいっ、んっ！
お、おちんちんっ、硬くなっちゃうよぉっ！

ボクの頭の中では、パンツすらつけてない委員長の姿が、ありありと浮かび上がっていた。

（はぁっ、はぁっ…おまんこ丸出しの委員長っ！みんなに見られているのに、剛毛おまんこをくぱぁしている委員長っ！）

（あーっ、ダメダメ、エッチすぎるよぉっ！こんなすごいの見ちゃったら、夏休みの間じゅう、委員長のことズリネタにしちゃうっ！いや、一生オカズにしちゃうかもぉぉっ！）

ボクのうしろ…並んでいる
カメコのみんなからざわめきが聞こえる。
きっと、委員長がおまんこ露出しているのに、
気付いてるんだ…
で、でも、ここで順番を譲ったら、
もう委員長の剛毛おまんこの写真が
撮れなくなっちゃう…！
もうすこし…もう少しだけ、
委員長を至近距離で見ていたいよ…。

（はぁっ、ああっ…えっちだよぉ、
委員長のアソコっ！
もしかしたら…もう、
誰かがこのおまんこのなかに、
おちんちんを出し入れしちゃったのかな…
精子、出されたこと…あるのかな。
たぶん、あるよね…委員長、とっても美人だし…）

「はぁっ、はぁぁっ…♥　んっ、くふぅっ♥
もっと、もっとしっかり撮ってぇっ……♥
毎晩コスオナでぐちょぐちょに濡らしている割れ目っ♥
んぐぅっ♥　あんっ！　オカズにしてぇっ♥
私の未使用まんこっ♥　ズリネタにしてぇっ！　はぁっ♥　んっ♥」
ふーっ♥
ふーふーふーっ♥
くちゅっ♥
にちゅ♥
びくんっ♥
びくんっ♥
…！　き、聞こえた…！
今、確かに委員長…「未使用まんこ」って言った…！
う、うそっ、あの真面目な委員長の口から、
あんなえっちな言葉が呟かれるなんて…！

（み、未使用まんこって……言ってたよね？
い、委員長、まだ処女なんだ…！
あ、ああっ、こんなにえっちな身体してるのに、
まだちんぽをハメられてないなんて
…そんなの、奇跡だよぉ…！）

よく見ると、股間にあてがった委員長の指は
もぞもぞと微かに動いていた。
まるでその…オ、オナニーを
しているかのように。

ボクたちふたりの周囲の空気が、
どんどん熱を孕んでいく。
夏の熱さだけが原因じゃない濃厚な空気が、
周囲一帯を包んでいた。

と、その時。委員長の身体が大きくビクンと跳ね、
身体が後ろにのけ反ってしまう…！
そして、わずかながら…おまんこから、
透明なお汁がびゅるっと吹き出したんだ…！

「ふぅーっ♥　ふぅぅぅーー♥
あ、あ、ああっ！　おんっ、んんんっ！
イグっ♥　んっ！　あっあっ、ダメっ、ダメェっ！
衆人環視のナカでっ！　んぎぃッ！　コスイキしちゃうぅっ！
あおっ、おんっ♥　ふぅーっ、ふぅぅぅーーっ♥」

委員長の喉から漏れる、獣のようなうなり声。
大きな胸が身体の痙攣に合わせて弾み、
雷に打たれたかのように肩がビクビクと震える。
ボクはカメラを置き、慌てて委員長に駆け寄った。

びくっ♥

びゅるっ♥

びくっ♥

「い、委員長…！　大丈夫？」
「あっあっ、んっ！　はぁぁーーっ！　んんっ♥」
「ど、どこか具合悪いの？　医務室…いく？」
「はふぅ、はぁっ……だ、だいじょう…ぶ……んんっ♥」

委員長は大丈夫と言ったけど、
その顔は上気して、耳たぶまで赤く染まっている。
よく見ると…目も潤んで、凄い汗だ。
そして…股間からは、汗とは違う体液が、ちょっぴり滴り落ちていた。

（も、もしかしてこれ、熱中症かも……！）

そう考えたボクは、並んでいた
カメラマンのみんなに
「撮影はここで中止させてください」という
旨を伝える。
そして委員長の身体を支え、
防災公園のすみへと連れ出した。

並んでいたカメラマンからは「おい！」
「なんだよ、撮らせろよ！」という
恨みの声が飛んできたけど、
いまはソレどころじゃない…

うう、ボクが早く交代
しなかったせいで…ごめんなさい！

防災公園のすみへと一時退避した委員長は、
まだ朦朧とした様子だった。
委員長の顔には珠の汗が浮かんでいたけど、
漂っていたのはとってもいい匂い。

ボクは撮影中の委員長の様子が
おかしかったことと、熱中症と思い、
撮影を中止して退避したことを告げた。

「…ごめんなさい。迷惑かけちゃったわね…」
「い、いや、迷惑だなんて…
それより、体調は大丈夫？　医務室に行く？」

そう提案すると、委員長は熱っぽい瞳で
ボクを見て、首を左右に振った。

「医務室じゃなく……んっ、あっ♥
女子トイレに…行きたいの。
キミも…ついてきてもらえる？」
「あ、うん、大丈夫だよ。付き添うよ…」

そう言うと、委員長はボクの手を引き、
防災公園の端のほうにあるトイレへと
向かって歩き出した。

委員長に手を引かれるなんて…
ちょっとドキドキしちゃう。
でも、足取りもしっかりしてるし、この調子なら
医務室にいかなくても大丈夫かな…。
よかった、委員長…熱射病とかじゃなくて。

委員長の体調を気遣いながら歩いていると、
ボクたちはトイレの前に着いていた。
コスプレ広場として解放されている
防災公園はとても広く、
公園の隅にあるトイレの周囲には、
まばらにしか人がいなかった。

「じゃあ、ボク、ここで待ってるから…」
ボクがそう言った瞬間、委員長はボクの手を、
さらに強く引いた。

「なに言ってるの？　キミも一緒に入るのよ」

委員長の言葉を聞き、
ボクはその場で凍り付いてしまう。

「い、一緒に入る…！？
ど、どうしてボクが…！」
「大丈夫よ。キミは女の子みたいに可愛いし、
バレないと思うけど」
「い、いやそのっ！　そ、そういう問題では…」

「はぁっ♥　んっ♥　はぁぁっ、
んっ…キミに、お願いがあるのよ」
「…え？　お、お願いって…」
「キミに…撮ってもらいたい写真があるの」

「身体が火照って…このままじゃ終われないの。
んくぅっ♥　はぁっ♥
さあ、早く一緒にきて…っ！」
「ちょ、ちょっと待って委員長っ！　わ、わわっ！」

ボクは委員長に引きずられるようにしながら、女子トイレの中に連れこまれてしまった。

委員長はボクをトイレの奥に押し込んだあと、後ろ手でカチャリと鍵をかける。

「はぁっ♥　はぁぁっ♥　ふふっ、これでもう……逃げられないわよ」

荒い息を吐き出しながらそう呟く委員長の雰囲気は、ボクが見知った学校での雰囲気とは、明らかに違っていた。

狭い個室の中で、委員長とふたりきり…
委員長からはほんのりと汗の匂いと、制汗剤のいい香りが漂ってくる。
間近で見るコスプレ姿の委員長に、ボクは胸をドギマギさせていた。
と、そこで。委員長の口から漏れた一言が、ボクをさらに焦らせた。

「…ね。カメラの撮影データ、私に見せてくれる？
キミがどんな写真を撮ったのか…知りたいの」
「え…？　ええっ！？　そ、そそっ、それは…！」

委員長の言葉を聞き、ボクは大いに狼狽えてしまった。

さっきまで撮影していた委員長の写真…
最初は真面目に撮っていたけど、
途中からはそのっ…
アソコのアップや、
パンツからはみ出たマン毛を
夢中で撮影しちゃってたんだ…

委員長に見られちゃうと、
たぶんデータ…全部消されちゃう。

いや、それどころか、
キモカメコと糾弾されて、
学校に行けないくらい
ものすごく叱られちゃうかも！

「どうしたの？　早く…見せて。
大丈夫よ、何が映っていても怒らないから」
「え？　で、でも……ううっ、わ、わかりました…。
そ、そのっ…偶然撮れちゃったものもあるというか、
ね、狙って撮ったものばかりじゃないんですっ」

ボクは顔を真っ赤にして、涙目になりながらカメラを委員長に手渡す。
委員長はカメラの電源を入れると、
メモカに収められた画像を閲覧していく。
最初は表情を変えずに液晶モニターを見ていた委員長だけど、
徐々にその頬に赤みが増し、表情が険しくなる…！

「ああっ…！　ちょっとキミ、こんな所も撮ってたの！？」
「ひっ！　す、すみませんすみませんっ！」
「思いっきりはみ出てるところ、ズームしてるし…！
はぁっ、はぁはぁっ…いやらしいっ、んっ♥　ふぅーっ、ふぅふぅっ♥」

「いやらしい、いやらしいっ！
私のこと、完全に性の対象として見てるじゃないのっ…！」

画像を見ながら、なぜか委員長の息がどんどん荒くなっていく。
そして、委員長はボクの前で
股間を摺り合わせながら、肩を大きく上下させる。

「ね、ねぇ、キミ…さっきはどんなことを思いながら、シャッターを切っていたの？　はぁっ、はぁーっ♥」
「え、えと、そ、そのっ……が、学校で見る委員長と違って、コスプレ姿の委員長も、魅力的…だなって」

はぁっ♥
はぁっ♥
ふぅーっ♥
ふぅーっ♥

「…嘘ね」
「…え？　う、嘘じゃないですよ、ホントに…！」
「はぁーっ、はぁぁっ♥　そ、そういう取り繕うような言葉じゃなくて、キミの…本心を聞きたいの。はぁっ、はぁーっ♥」

そう言うと…委員長はカメラをボクに戻し、ゆっくりとスカートをめくりあげ…びっしりとハミ毛が生えた股間をボクへと晒した。

「わ、私…見てたんだから。撮影しながら、キミがアソコを…チンポをギンギンに勃起させているところ」

「……！」

ショックを受けたのは「委員長にバレてたんだ…！」という事実だけじゃない。あの真面目な委員長の口から漏れた「チンポ」という単語と、えっちな毛で覆われていたおまんこの周囲は、ボクの理性と下半身にものすごい衝撃を与えたんだ。

「あふぅっ♥　んっ、はぁっ、ああっ♥
あんなドスケベな写真撮って、なにをするつもりだったの？
わ、私をネットに晒して、『コミケの闇』とか
タグをつけてバズらせるつもりだった…？
「そ、そんなことしないよ！」
「…そうね、悪かったわ。キミはそんなことをするような
タイプではないものね…」
委員長はそう言葉を継ぐと、腰をくねらせながら、潤んだ瞳でボクを見据えた。
スカートをめくりあげた委員長からは、片時も目を離すことはできなかった…
んっ、はあっ♥」
むちぃっ♥
モサァアッ♥

「じゃ、じゃあ…オカズ目的で写真を撮ってたの？
わ、私のハミ毛全開の高雄コスプレを見て、はぁっ、ああっ♥
興奮して、ズリネタにして、家に帰っておちんぽシコシコしようって
思ってたの？　はぁっ♥　ああっ、んっ！」

ふぅーっ♥
ふぅぅーっ♥

「…は、はい。ご、ごめんなさい。い、委員長のえっちな写真で…
帰ったら、その…おちんぽシゴこうって…思ってました」

委員長に図星を突かれて、まっすぐに見据えられ、
ボクは隠し立てすることなく素直に答えちゃった…

「私をオカズに？　んっ！　んんっ……！
変態っ、変態っ！　ああ、穢らわしいわ……！
私のコスプレでおちんぽ勃てるなんてっ♥　はぁっ、ああっ！
キミからしてみれば、私はただのズリネタレイヤーなのね。
同級生のコスプレ写真を撮りながら発情するなんて……
劣情丸出しで私を視姦するなんて……最低っ、はぁっ♥」

はっ♥はっ♥

「で、でも……私だって同じ穴のムジナね。んっ、はふぅっ♥
恥ずかしげもなく公衆の面前でハミ毛を晒してっ、
カメコのオカズになっておまんこ濡らしている私のこと、
キミは軽蔑する？　はぁっ、ああっ、んんっ……！
あ、ああっ、熱いっ♥　身体が……火照ってきちゃうっ！」

むわぁっ♥

委員長の衝撃的な告白を、
ボクは息を飲みながら聞き入っていた。

そして、委員長は息を荒げながら
肩を震わせると、
首元のスカーフを外し、ゆっくりと……
衣装の胸元に手を這わせていく。

そして、パツパツに盛り上がった
胸のボタンを外すと、
その白い肌を…ふくよかなバストを、
ボクに見せつけるように晒していった。

「はぁっ、ああっ……キミ、オカズが……欲しいのよね？　いいわよ、撮っても……と、特別に撮らせて……あげるわ♥んっ、くふぅっ！　はぁ、はぁっ……♥」
ふぅーっ♥
ふぅーっ♥
くいっ♥
はだけた胸元を見せつけながら、委員長は申し訳程度に左手で顔を隠す。ボクは、はじめて見るママ以外の女性のおっぱいに……卒倒しそうなほど興奮していた！

「あ、あああっ！　い、委員長、見えてるよ！
おっぱいが……見えちゃってるっ！
乳首がっ、ビンビンに勃ったえっちな乳首、
ポロリしちゃってるよぉっ！」
はぁーっ♥
ふうぅーっ♥
ビンッ♥
撮影のときから薄々わかっていたけど、
委員長はブラジャーをしておらず、
衣装の下には直接、生のおっぱいが収められていた。

委員長の乳首は、思ったよりも色が濃くて、乳輪も大きめ。
乳首はぷっくりと膨らんでえっちな自己主張をしていたんだ。
あ、ああっ、いつも見ていた制服の下には、
こんなにいやらしい乳首があったんだ……！

「ほ、本当に撮ってもいいの？」
「はぁっ、ああっ、いいわよ…♥
でも、絶対に人に見せちゃダメなんだからっ……はぁっ、ああっ。
データはあとで、私にも送ってね…んっ、んんっ！」

ボクは委員長の言葉にコクコクと頷くと、こぼれ出た乳首にピントを合わせ、シャッターをきっていく。狭い女子トイレの室内に微かな機械音が響き、委員長の痴態がメモリーカードに記録され続ける。

「あ、あああっ…私っ、クラスメートに胸を見せちゃってるっ♥こんな場所でっ、おっぱい晒して……はふっ！興奮しちゃってるっ、はぁっ♥　ああっ、おまんこ濡らしちゃってるっ！シャッターの音が響くたび…あんっ♥パンツの中…ぐしょぐしょに…なるぅ！　んんっ、はぁーっ♥」

喘ぎ声を漏らしていた委員長だけじゃなく、
興奮しているのはボクも同じだった。
自分とは違う世界の住民だと
思ってた委員長…
恋人として妄想することすら
許されないほど、縁がないと
思っていた女の子と……
まさか、こんな状況になるなんて！

「はぁっ、ああっ！　委員長の生乳首っ！
すごいっ、すごいよっ！
ボク、卒業するまで、この写真で
オナり続けるかも……！」

ボクの口からはつい本音が
出てしまったが、もはや訂正する時間も
惜しいほどに、ボクは
必死になってシャッターをきり続けていた。

と、そのとき…委員長の口から、
驚くべき言葉が告げられたんだ。

「はぁっ、はぁっ…♥ おちんちんシゴくのならっ……
ね、ねぇ、どうせ帰ってもいいのよ？」
ここで抜いていってもいいのよ？」
「…え？　それって…どういう…」
「オフパコとかは…その、したことないから無理だけど…
私が生オカズになってあげることは…できるわよ」
「な、生オカズってそのっ…！　い、委員長を見ながら、
おちんぽシゴいてもいいって……こと？」

ボクは最初、なにかの冗談だと思っちゃった。
だ、だって、コミケの会場で、そのっ…
おちんちんシゴいて、精液出しちゃうなんて、
そんなエロ漫画みたいなシチュエーションが、
あるはずはないって……！
だけど、ボクを見る委員長の目は
熱でトロンと潤んでいたものの…
冗談ではなく「本気」を感じさせたんだ。

「い、いいの？　本当に……ここ、女子トイレなのに
お、おちんちん、出しても…」
「はぁっ、はぁっ♥　…いいわよ、許可、します。」
だってキミのおちんぽ、もうパンパンなんでしょ」

「は、はいっ！　委員長の写真を撮りはじめたときから、
ガチガチに勃起してて、パンツの中、先走りでびしゃびしゃで…」
「ふふっ、我慢できないおちんぽなんだ。だけど……みんなには
秘密にしてね。もっとも、このことが公になったら…
キミも困るとは思うけど…はぁ、はぁっ♥」

クラスメートの女子の前で、おちんぽを出す。
その行為はあまりもハードルが高く、
恥ずかしさは限界突破してたけど……
ボクはトイレの中の熱気と、
委員長の身体から立ちのぼる
えっちな体臭に、脳を焼かれていたんだ。

ボクのおちんちんは、そのっ
……あまり大きくなくて、
皮も被ったままで、見られるのは
恥ずかしかったけど……
今は「気持ちよくなりたい」という
興奮のほうが、
ボクの全身を支配してたんだ。

「ご、ごめんなさい、委員長っ。
ボク、もう我慢……できないよ……
し、しごかせてっ、おちんぽ、
シコシコさせてぇっ」
「ええ、いいわよ。遠慮せずに…
私の前でシコってみせて。
今日は特別……
キミが見たいポーズをとってあげるわ」

「ほ、本当！？　じゃ、じゃあ、そのっ……
お、おしりっ、委員長のお尻を見ながら
……抜きたいですっ！」
「ふふっ、いいわよ。
そう…キミはお尻好き、なんだ。
覚えておくわね」

ボクは…委員長のお尻が大好きだった。
もちろん、整った顔も、おっきいおっぱいも好きだったけど…
スカートの上からむっちりと盛り上がった
巨尻を見ているだけで…
キンタマの精子工場がフル稼働しちゃうのを感じていたんだ。
そのお尻を生オカズにしてオナニーできるのなら…
も、もう、学校を退学になっちゃってもかまわない。
これから先の学校生活で、
委員長から軽蔑の目で見られ続けてもかまわない…！

「お、お願いします……っ！
ボク、委員長のお尻を見ながら…おちんちんしごきたいですっ！
えっちなコスプレ委員長を見ながら、ザーメンぴゅっぴゅしたいですっ！」

はぁーっ♥
はふぅーっ♥
んんっ♥

ボクはあたらめて宣言すると、深々と頭を下げた。
委員長はボクのことを一瞥すると、
妖艶な微笑みをその顔に浮かべる。

「はぁっ、はぁっ、はぁぁっ♥　いいわよ…デカケツレイヤーの生尻で、
いっぱいチンポをしごいてみせて…おちんぽ汁、私に見せてぇっ…♥」

委員長は個室の奥に移動すると、
便器にまたがるようにして…
そのむっちりとしたお尻をボクへと向けた。
たっぷりと肉が詰まった、むちむちのヒップが
ボクの目の前でぷるんと揺れる。
お尻の穴の近くにはえっちなケツ毛が密生して、
それが卑猥さを加速させた。

（あ、あ、ああっ…！　おっきいっ！
そしてむちむちで…すっごくやらしいっ！）

「あ、あああっ！　委員長のお尻っ、生尻っ！
ふぅーっ、はぁっ、ああ、ああっ！
えっちな毛がはみ出てて、すっごくヤらしいよおっ！」

「はぁっ、ふぅっ♥――ごめんね、お尻、おっきくて…。
男子が私のこと、デカケツ委員長って
言ってるのは知ってるの。
高雄のイメージ、壊しちゃってごめんなさい、んんっ♥」

たぷんっ♥

モサアッ♥

「ぼ、ボクはそのっ、委員長のお尻、好きですっ！
大きいのも、そ、それにっ、毛深いところも…！」

目の前で揺れる巨尻を見ながら、
ボクはゆっくりとズボンを下げると、
皮かむりのおちんちんを取り出した。

ふぁぁ、ああっ……人前で…
クラスメートの前で
おちんぽ出しちゃったっ、
包茎まるかぶりおちんぽ、
みられちゃったぁっ……！

ボクは恥ずかしさを隠して、
みっともなく皮がかぶったままの
おちんぽを自分の手で
シコシコとしごきはじめたんだ。

「はぁっ、ああっ！　ふぅっ、んっ！
ボク、おかしくなっちゃったのかなっ、あんっ！
クラスメートの前で、委員長のまえで…あんっ、
んっ！　おちんぽシコシコしちゃってるぅ！」

「はぁーっ♥　んっ、あ、ああっ！
は、はじめて見たっ、クラスメートのおちんぽっ…！
これって、包茎…ちんぽってやつでしょ？」

ぷりん♥

むちぃっ♥

んっ…♥
んんっ…♥

「あ、ああっ！　未熟な皮かぶりちんぽっ！
ふぅーっ、ふぅぅーっ！　興奮するっ、興奮しちゃうっ♥」

「皮をかぶっててもちゃんと勃つのねっ、はぁっ、ああっ！
い、いいわっ！　みっともなく腰をヘコヘコ動かして、
コスプレイヤーをオカズに生オナニーしなさいっ…！
はぁぁっ♥　やらしいっ、いやらしいのおっ！」

委員長はボクにみせつけるようにして、
そのおっきなお尻をフリフリと揺さぶる。
割れ目からはえっちな尻毛がチラチラと見えて、
ボクの勃起はさらに硬度を増していく。

皮につつまれたおちんちんはどんどん硬くなり、
少しづつ亀頭が膨らんでいっていた。

「う、ううっ！　ヤらしいっ！
委員長の巨尻っ、デカケツっ、最高ですっ！
あっあっあっ！　夢みたいっ！
ずっと憧れていた委員長の生尻見ながら、
オナニーできるなんてぇ……っ！」

「ね、ねえ、わかってて聞くのは申し訳ないんだけど…
このおちんぽ、誰かのおまんこに入れたこと…あるの？」

むちいっ♥

ぷりんっ♥

はーっ♥
はぁーっ♥

「な、ないですっ…あるわけないよおっ…はぁっ、ああっ、
童貞で未使用の、包茎ちんちんですうっ！　んっ、やぁっ！」

「そ、そうなんだ…！　未使用のオナニー専門ちんちんっ、私のおまんこと同じねっ！　はぁっ、あああっ！」
「…！　い、委員長のアソコも…未使用…なんだね…あ、ああっ！　んっ！」
「私っ、処女なのにっ、こんなヤらしいコスプレして、みんなに目で犯されて…ああっ！　んくうっ♥」

はあっ♥
はあっ♥
ふうーっ♥
はあーっ♥

個室の中に熱気が充満し、ボクと委員長の吐息が周囲の温度を上げていく。
隣の個室に、人が入った気配を感じたけど…ボクたちの興奮はとどまることなく、身体の芯から湧き上がる快感へと身を任せ続けていた。

「ふうっ、はふうっ！　あ、あああっ！
私っ、ズリネタにされてるうっ！　んっ！
エロ同人誌みたいにっ、
カメコにオカズにされてっ、
性欲の対象にされちゃってるうっ！
んんーーっ！」

見ると、委員長も自分の股間に
指を這わし……ボクと同じように
オナニーをしていたんだ。
その光景はボクの興奮をさらに誘い、
右腕の動きを闊達にした。

「い、委員長もオナニーするんだ…んくぅっ、はぁっ！
あの真面目な委員長が、オナニー…っ！
自分でおまんこを触って、
気持ちよくなってるなんてぇーっ！」
「はぁっ、ああっ！　するっ、するわよっ！
私、オナニー大好きだからっ、あっ、あんっ！」

あんっ♥
んんっ♥

くちゅっ♥
にちゅっ♥

「私みたいな普段は地味な女が、
性欲の対象にされてっ、
目で犯されて、欲望の捌け口に
されていると思うと…
あああん♥　たまんないのおおっ！」

「い、委員長は地味じゃないですっ！
そのえっちな胸や、むっちりしたお尻に
憧れてる男子はいっぱいいますっ！
ぼ、ボクもその一人ですし……っ！」
「キミが…私のことを？　はぁっ、はぁぁっ！
んっ、そ、それは光栄だわっ♥　んんーーっ！」

あんっ♥
んんっ♥
ふぅーっ♥
んんーっ♥

むちぃっ♥
くちゅっ♥
にちゅぅ♥

「はぁっ、はぁっ♥　女子トイレのなかで
おちんちんそんなにカチカチにしてぇっ！
そのキンタマの中には、レイヤーを妊娠させちゃう
赤ちゃんの素がたっぷり詰まってるのねっ……！」

「あーっ！　んっ、くぅうっ！　やらしいっ、委員長の身体、えっちすぎるよぉっ！
おちんちんの勃起がとまらないっ！　先走りドバドバでちゃうっ！
シコシコがやめられないよぉおおっ！　ああーーっ！」

「ふーっ、ふぅうっ！　んっ、はぁっ、あっあっ！
しびれるっ、まんこしびれるうっ！　乳首もビンビンになってるうっ！
コスオナさいこおっ、クリを弾きながらの
指入れすきいいいいっ！　んぐうううっ！」

ぶるるっ、と委員長の身体が震えるたび、
ボクのほうに向けた尻肉が波うち、
アナルの周りに生えたえっちな毛が
ボクの興奮をさらにかきたてる。

「あ、あ、あああっ！　委員長のおまんこの毛っ、お尻の毛っ、
えっち過ぎるぅっ！　はぁぁぁっ！
こんなに生やしてっ、わざとハミ出させてっ！
はぁーっ、はぁぁーーっ！
おちんちんイライラしちゃうううっ！」

「はぁっ、ああっ！　わ、私みたいな地味な女は、
それくらいしないと撮ってもらえないのっ！」
ふぅーっ、んんっ♥　もっと観てっ！
本当の私は承認欲求の塊のような女なのっ！
あんっ、んっ！　観られたいっ、認められたいっ！
性の捌け口にしてほしいっ！
ズリネタオカズになりたいいいいいっ！　んくうううっ！」

はぁっはぁっ♥

はぁーっ♥

んんっ……♥

にちゅっ♥

くちゅっ♥

委員長の股間からちゅくっ、くちゅっ、と
湿った音が響き、個室の温度が
加速度的に上昇していく。

「あっあっあっ！　ど、どうしようっ！
出ちゃうっ！　せーし出ちゃうよぉっ！
同級生のコスプレを生オカズにしながら、
ザーメンぴゅっぴゅしちゃうううううっ！」

ムワァッ♥

ヒクッ♥

ヒクッ♥

にちゅっ♥

くちゅっ♥

はぁっ♥
ああっ♥

んっ♥ イイッ♥

「はぁっ♥　はぁっ、ああっ！　だ、出してっ！
包茎チンポから精子噴くとこ見せてぇっ！
レイヤーをオカズにしてチンポギン勃ちしてる、
童貞カメコがマジイキするところ見せてぇぇぇっ！
あ、あ、あああっ！　イくうっ、私もイくうっ！」

「おおんっ！　おっおっ！　イくぅっ！
同級生にズリネタにされてイくぅっ、イッグぅっ！
見てっ、みてぇぇっ！　優等生のフリしてるのに
露出コスでグチョマン濡らして、
イベント会場の女子便所でマンズリキメて
イッちゃう、イッちゃうぅっ！
おんっ！　おっほ！　お、お、おぐぅぅっ！
あ、あ、あああっ！　んんーーっ！」

くちゅっ♥
にちゅっ♥
びくぅ♥

「だ…め…まんこイくっ！
ハミ毛さらしてっ、ドスケベ写真撮られて…っ！
ズリネタ願望垂れ流してぇっ！
い、い、イッく！　イグぅっ！　ほおおん！」

「ひうううっ！　あっあっあああーっ！
出てるっ、せーしでてるうううっ！
んつ、くうっ！　出るっ、出る出るっ！
デカケツ委員長のコスプレ尻に精子でりゅっ！
クラスメートの生尻にぶっかけちゃうっ！
止まらないよぉっ！　ひぐうううーーっ！」

びくっ♥
びくうっ♥

どぷっ
びゅるるっ

「ああーーっ！　き、来てるっ、んっ！
チンポ汁ぶっかけられてるっ♥　ああーっ！
これが本物の精子っ！　あっ、凄いっ♥　んんっ！
私もイくうっ！　本気アクメくるうっ♥♥
んんんーーっ！　ほおおおおん！」

ボクのおちんぽの先から
吹き出たザーメンは、
委員長の大きなお尻に降り掛かり、
真っ白な染みを次々と作っていった。

樹液が肌に降り掛かるたびに、
委員長は喉を振るわせ
ケダモノのような声をあげ、
その肩をビクビクと震わせて
背中をのけ反らせる。

女の子って、本当にこんな風に
イくんだ…！　ほのかな感動とともに、
ボクのチンポは噴き出るザーメンで
亀頭が焼ききれそうなほど
熱を孕み続けていた。

「あ、あ、ああっ！　出しちゃった…
こ、こんなにいっぱい…委員長のお尻に…
憧れのデカケツに、いっぱいぶっかけちゃった…
はぁ、はぁ、ああっ？…信じられないいいっ」

どろぉっ♥

むわぁっ♥

びくんっ♥
びくんっ♥

ふーっ♥
ふーっ♥

「ふぅーっ♥　ふぅぅぅっ♥
け、穢された…コミケ会場で、生オカズにされて、
ザーメンかけられるなんて…エロ漫画みたいっ♥
ああっ♥　いいっ、いいっ…♥
おまんこのしびれ、とまらないぃ♥
私の夢、叶っちゃったぁぁ…♥　はぁぁんっ♥」

個室の中に、濃厚なザーメンの匂いが充満する。
いままで何回も嗅いだおなじみの香りに混じって、
委員長の下半身からも…なんだか、
とってもエッチな香りが
立ち昇っていたんだ。

むわあっ♥ ドロォ…♥

「はぁっ、はぁぁっ…♥ い、いいこと？
これは私とキミとだけの秘密なんだから…」
「は、はいっ、もちろん…ですっ」
「絶対に…誰にも言っちゃダメよ…？ んんっ！」

委員長の熱を孕んだ声を聞きつつも、
ボクは『やってしまった！』という
後悔よりも、
委員長と大きな秘密を共有できたこと、
そして…憧れの人の痴態を
観れたことに対する満足感に
心のほとんどを支配されていた。

でも、どうしよう…
こんな気持ちいいオナニーを
しちゃったら、これから
満足できなくなっちゃうかもしれない…
それに…もっともっと、委員長の
えっちなコスプレ…見てみたいな…。

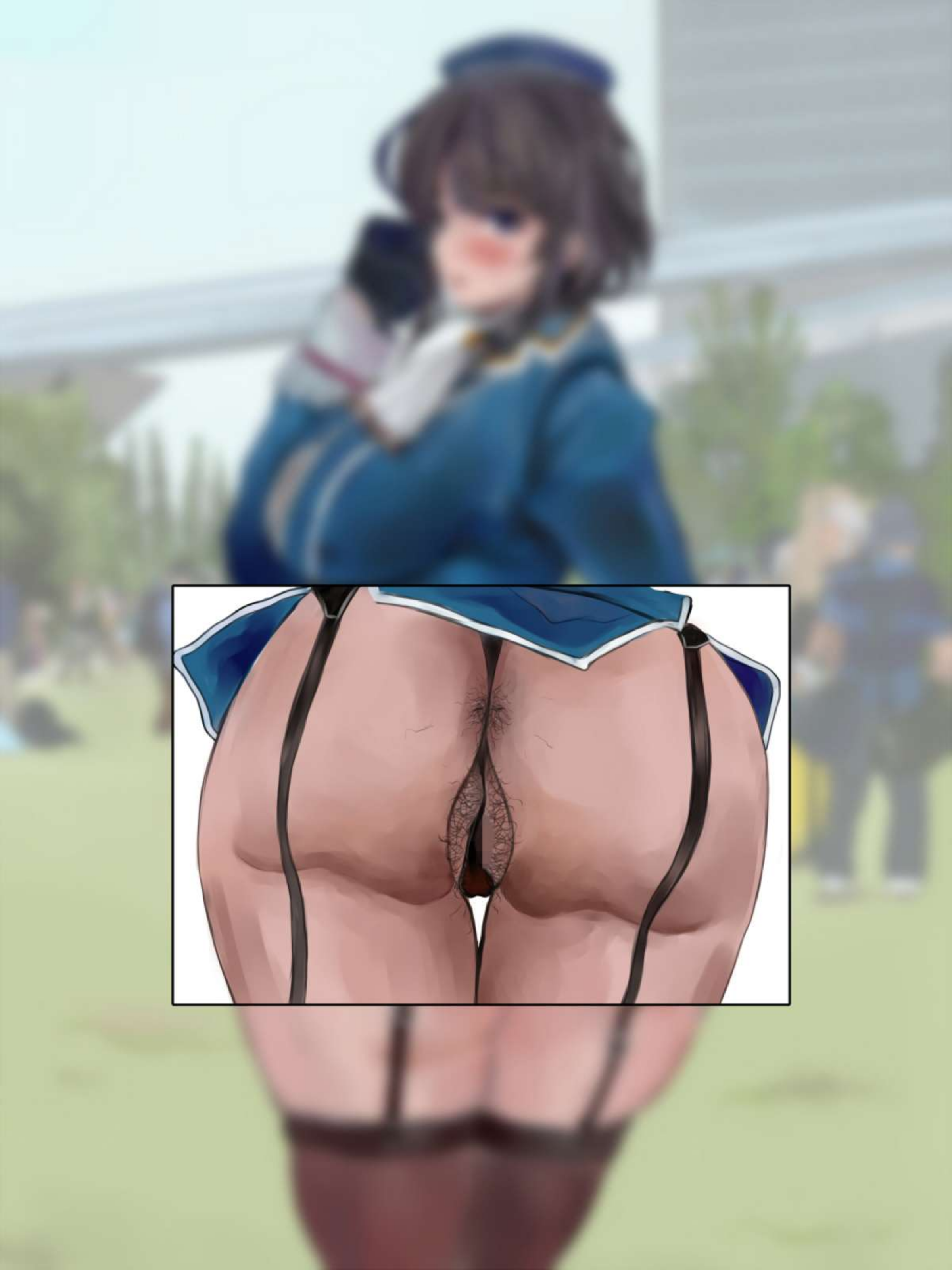
そんなことを考えていた、その時。
委員長は巨尻に垂れたザーメンを
軽くティッシュで拭うと、
ボクに身体を寄せてきた。

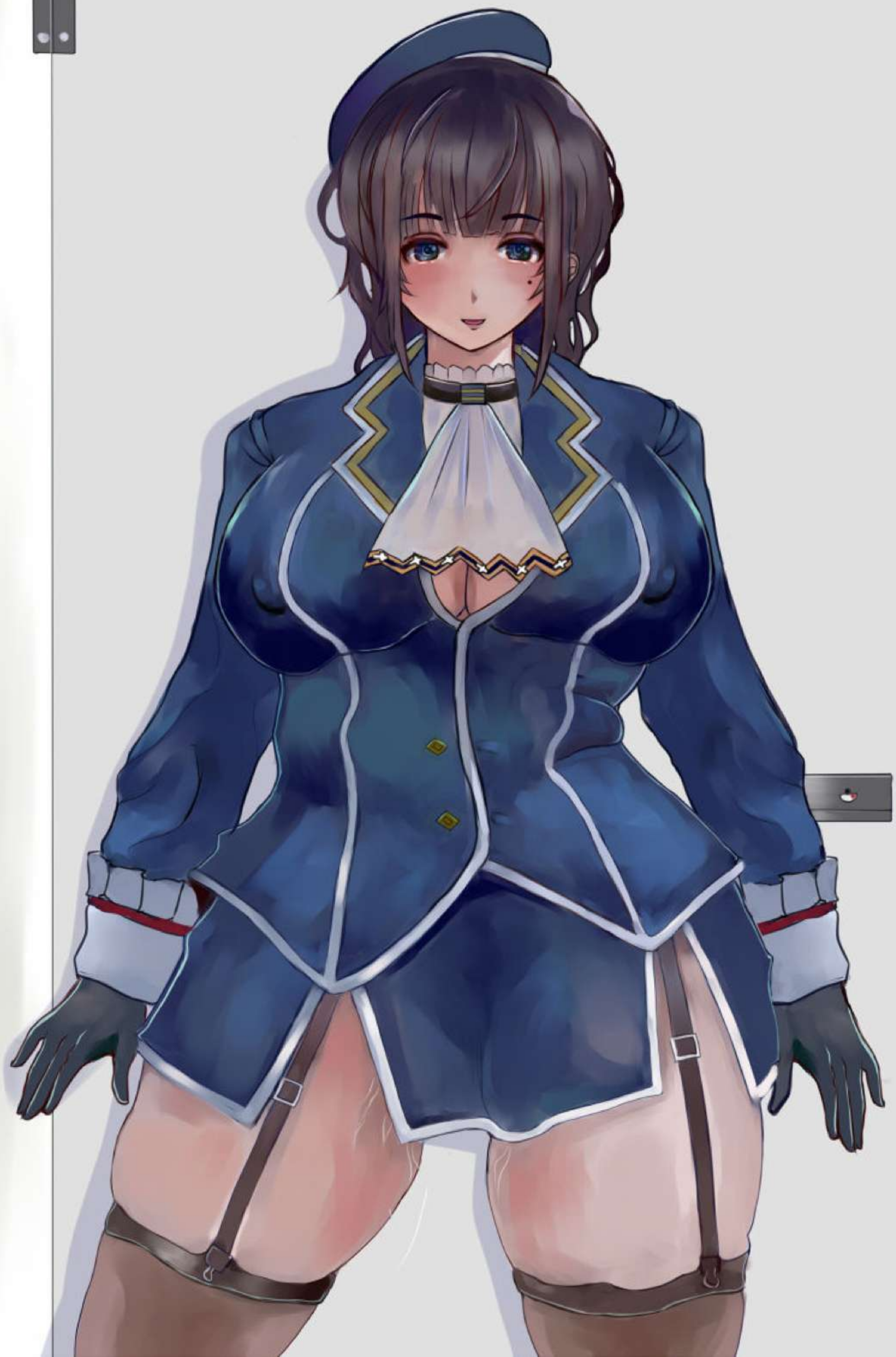
「あ、あのっ！　い、委員長、なにを…！
わ、わわっ、か、顔が近いですっ…！」
「…これは口止めの記念写真よ。
ほら、こっちのスマホを見て」

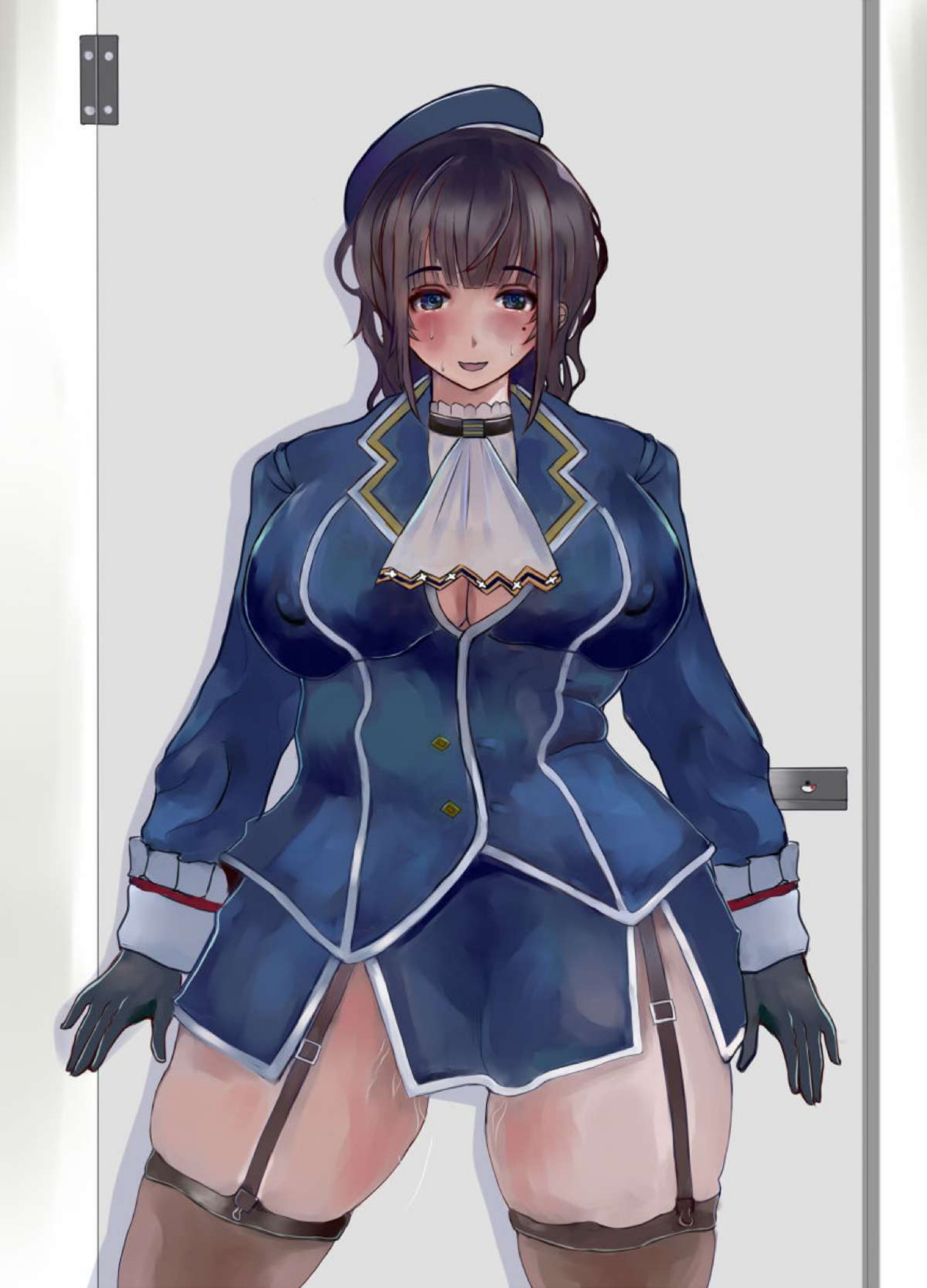
「え？　えっえっえっ！？」
「はい、タイマー動くわよ…よし、と。
ふふっ、これで私とキミは…『共犯』ね。
これからも…付き合ってもらうわよ」
「つ、付き合うって…な、なな、なにを！？」

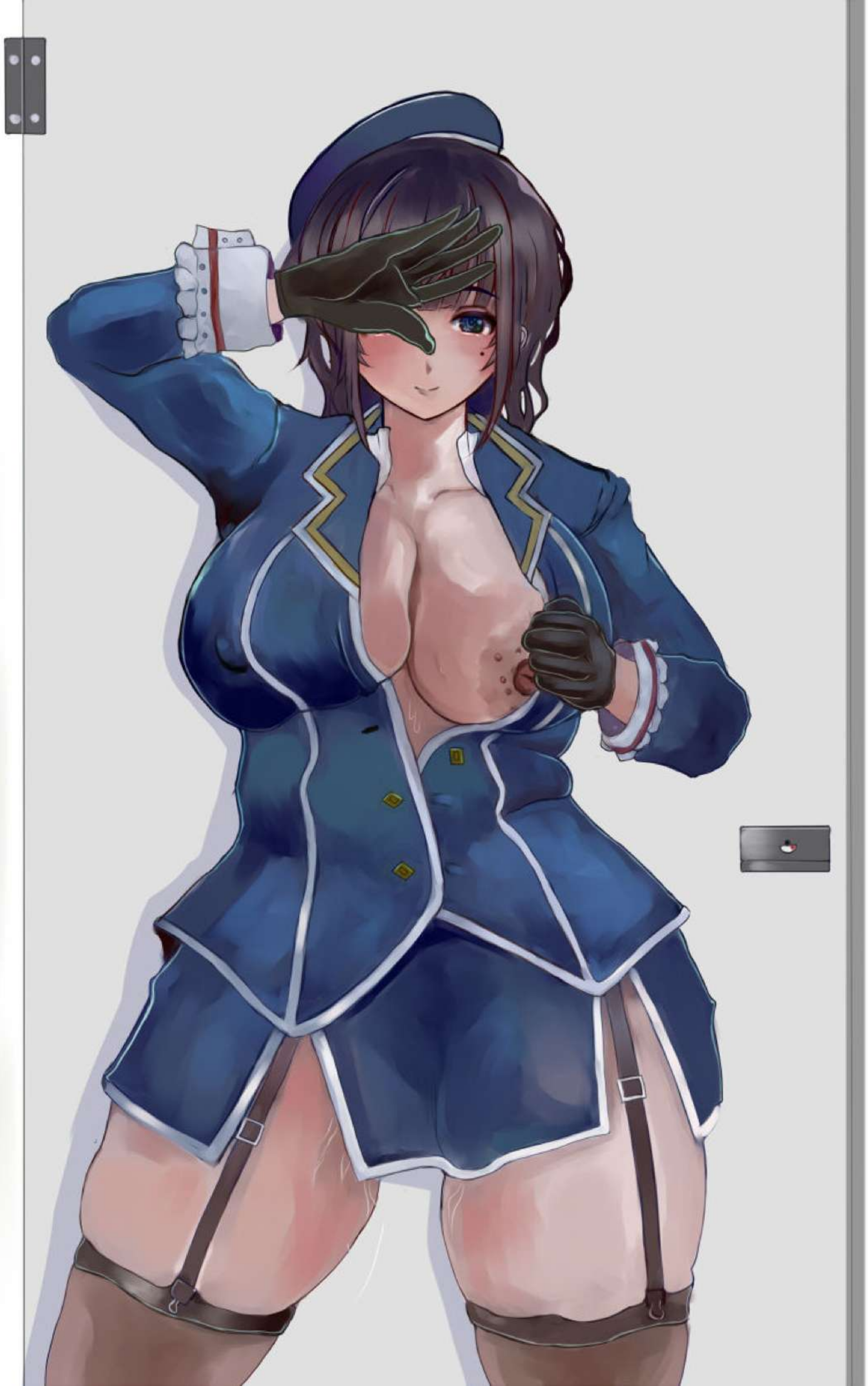
「別に、男女の関係になりなさいと
言っているわけじゃないわ。
私はエロい露出コスをして、写真を撮られたい。
キミはズリネタになるような写真を撮りたい。
となると…一緒にイベントに参加すれば
互いにウィン＝ウィンの関係になるでしょ？」

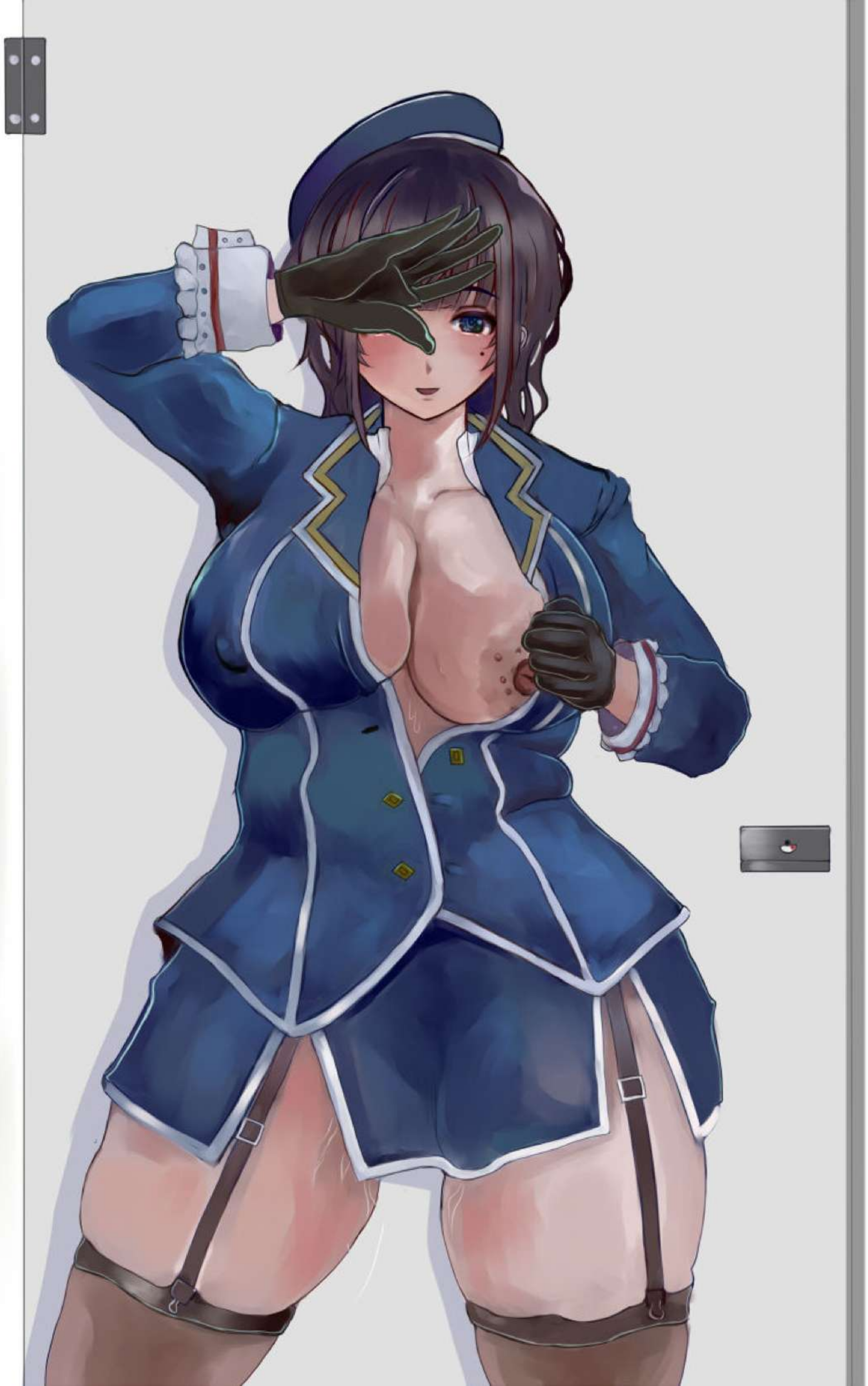
「え、そ、それって…！」
「次のイベントにも…付き合ってもらうわよ。
もちろん、クラスのみんなにはナイショでね。
ふふっ…」

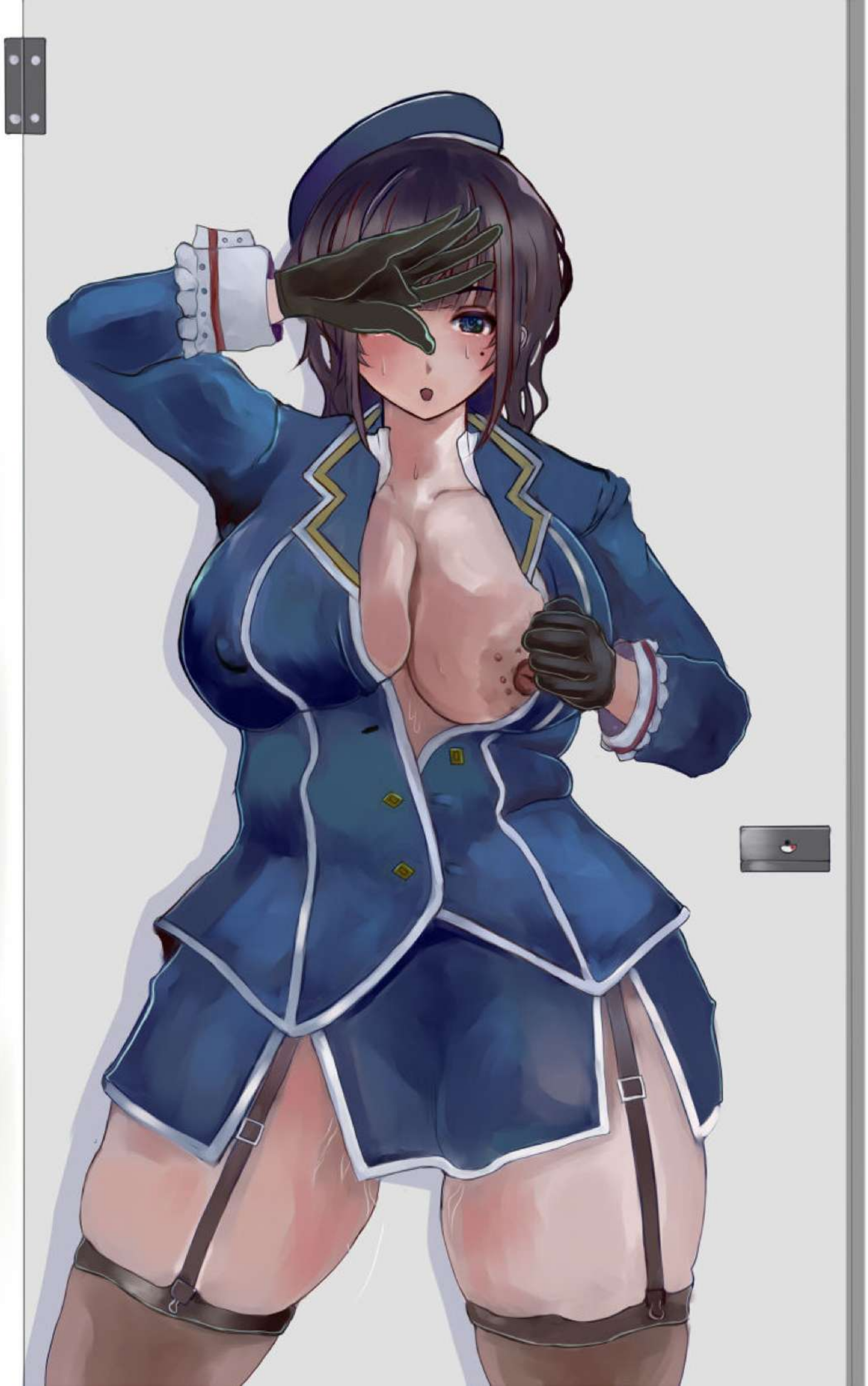


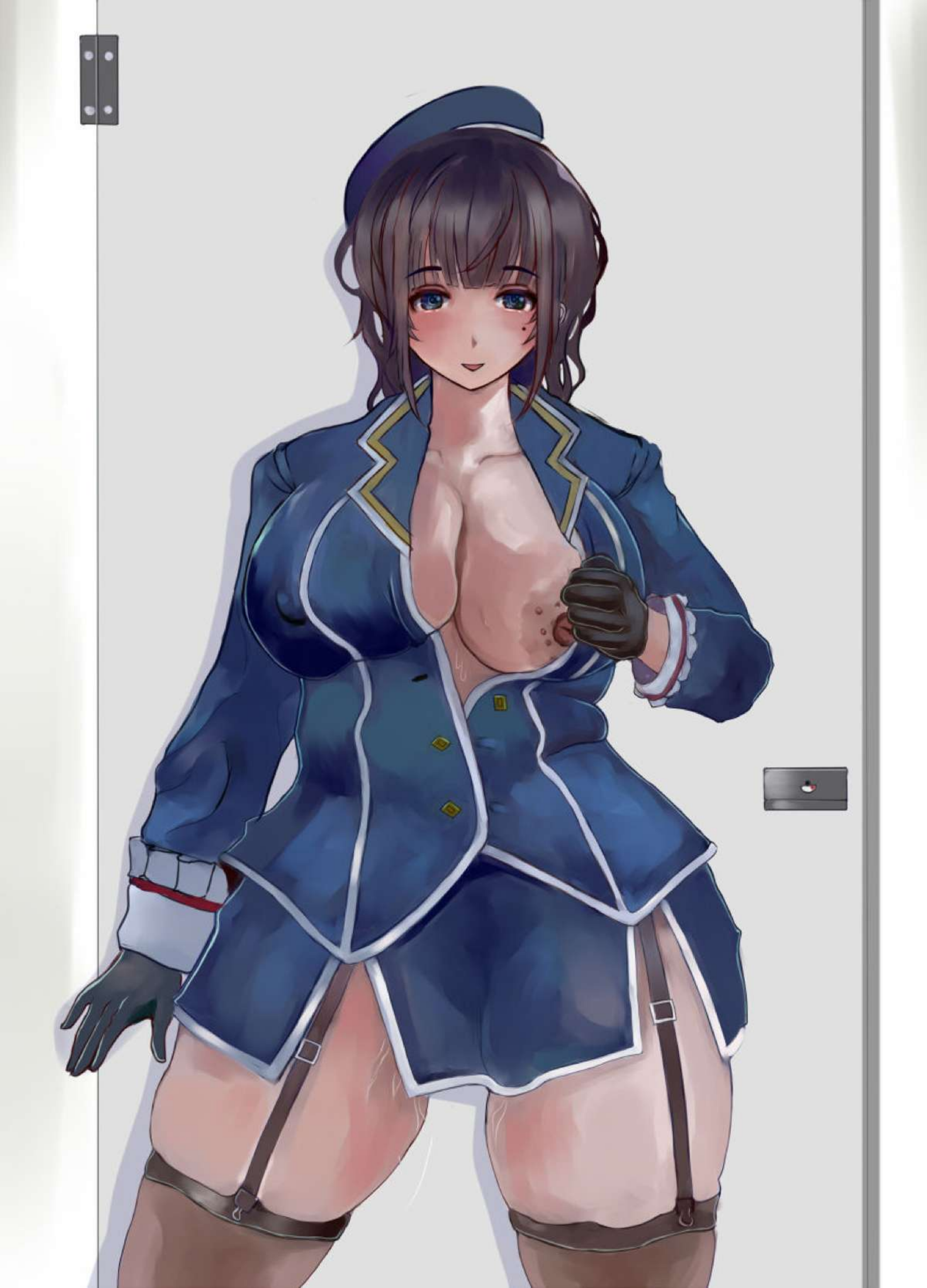












コスプレ委員長　設定そのいち

制服（夏服）
クラスで一番
スカートが長い

初コスプレは
高校一年時
（今から一年前）

生真面目な性格で小学校一年生の時から
ずっと学級委員長を務めてきた。

アニメ、漫画、ゲームに詳しいが、学校では
オタバレしていない。みんなに慕われているが、
実は親友と呼べる存在はいない。文芸部。

初コスプレはヘスティア様。乳輪ポロリしていたのに
気づかず、囲みで写真を撮られまくる。帰宅後、
ネットで晒されているのに気づき、その書き込みを見て
大興奮。野獣のようなオナニーにふけってしまう。
それ以降、コスプレ露出に目覚めてしまうことに。

処女（交際歴なし）。毛深い。Hカップ。ケツのサイズは99cm。衣装はお手製。露出願望があるのを最近自覚。体臭はややキツめ。
実家は都内一戸建て。部屋にオルガンがあるために防音がしっかりしており、絶叫系のオナニーをしても家族にバレない。

はぁっ、あ、ああっ…見られてるっ♥
こんなだらしない腋っ
写真に撮られちゃってるっ♥
あ、ああっ、この人…
勃起してるっ！
私のコスプレ見て
おちんぽ硬くしてるっ♥
はぁ、はぁっ、この人たち…
帰ってあたしの写真でヌくのかな？
あたしをオカズにして…
おちんぽシコシコするのぉ…？
ここにいるカメラマンたち、みんなあたしに
おちんぽ挿れたいって思ってるんだ…
ザーメンぶっかけたいとか思ってるんだ…！
はふぅっ♥　たまらないよぉっ！
委員長は潔癖性で、だらしないのが大嫌い。
だからこそ、ワザと体毛未処理のまま
コスプレをし、耐え難い羞恥心を快感へと
変換している模様。ちなみに、乳首ポロリは
本人も想定外だったらしい。
初コスプレのヘスティアから半年後。
二回目のコスプレは
艦これ・神威を選んだ委員長。
家族にバレないように、数ヶ月かけて
コツコツ衣装を制作したとのこと。
ローアングラーにも
サービスするかのように
生尻とハミ毛を晒す委員長。
学校では、優等生として
頼られることはあっても
「一人の女」としてチヤホヤされることは
これまで皆無だった。
しかし、コミケのコスプレ広場では、
雄の性欲をダイレクトにぶつけられ、
これまで感じたことのなかった雌の悦びに
子宮を疼かせることになる。